

たのしい たのしい 船穂校♪

倉敷市立船穂小学校 横山文朗

巨大ジャガイモ

ジャガイモの収穫をした。巨大なイモが出てきたので、これはおもしろい子どもたちにみせてやろうと思った。ジャガイモは三月上旬に植える。種イモの大きさにもよるが、半分、三分の一、四分の一に切り、細菌が入らないように切り口に草木を燃やしてできた灰を付けて植える。四月になると一つの種イモから6本程度の芽が出てくる。その芽の地下茎にイモはできるから、そのままにしておくと小さなイモがたくさんできる。わたしは、2本程度を残して後は切っている。そうするとデンプンは限られたイモに蓄えられ大きくなる。何かの加減でデンプンが一つのイモに集中すると巨大ジャガイモができる。

野菜づくりを趣味にしてもう10年以上になる。栽培を始めたきっかけは、父親が倒れて田畑の管理をしなくてはならなくなったことだった。当時は、鏡野町に単身赴任をしていたので、たまの休日に田畑を耕し、草刈機で除草をすることはひどく苦痛だった。2年ほどその作業を続けていて、ある時ふと作物を植えれば田畑の管理にも精が出るのではないかと思った。やってみると失敗の連続でなかなか難しい。しかし、たまたまうまくいくと家族に喜んでもらえ続けてきた。

畑に加えて、水田まで作物を植え、休日になると朝早くから畑に行き、昼食を食べた後も暗くなるまで畑で作業をしてきた。仕事のことを忘れてくたくたになるまで作業をすることがかえって爽快で、家で食べきれないものは学校に持って来て、職場のみんなに喜んでもらえるのもうれしかった。しかし、2～3年前から耕作面積を維持するのが苦痛になってきた。

そこで、今年の春、自分にとっては重大な決断をした。作付面積を半分にした。14本植えていた、トマトもキュウリもピーマンも7本にした。ジャガイモも半分にした。作付面積を減らすことで、体も楽になったが、栽培にかかる手間にも余裕が生まれた。ジャガイモのうねとうねの間に黒マルチをはり、雑草もまめにぬいた。昨年までは、ジャガイモと雑草が仲良く繁っている中での収穫だったが、今年は雑草はほとんど生えていない。巨大ジャガイモがとれた本当の理由は、そんなところにあるのかもしれない。野菜作りは奥が深い。

